

### 三 論 宗 御 書

弘安元年 五七歳

三論宗の始めて日本に渡りしは、三十四代推古の御宇治十年壬戌十月、百済の僧くだら観勒かんろく之を渡す。日本紀の太子の伝を見るに異義無し。但し三十七代の事、流布の始めなり。天台宗律宗の渡る事は、天平勝宝六年甲午二月十六日丁未ひのとひつじ乃至四月、京に入り東大寺に入る、天台止観等云云。諸伝之に同じ。人王第四十六代孝謙天皇の御宇なり。聖武は義あやま謬りなり、書き直すべきか。戒壇は以て前に同じ。大日経の日本に渡る事は、弘法こうぼうの遺告ゆいごうに云はく「件くだんの経王は大日本国の高市郡久米道場の東塔の下に在り」云云。此又元正げんしょう天皇の御宇なり。法華経の渡り始めし事は、人王第卅四代推古の四年なり。「太子云はく、惠慈法師に謂ひて曰く、法華経の中の此の句、字を落とす」云云。太子使つかひを漢土に遣はす已前、法華経此の国に有りや。推知するに欽明の御宇に渡る所の経の中に法華経は有るなり。

但し自づから御不審の大事有り。所謂日本紀に云はく「欽明天皇十三壬申冬十月十三日辛酉、百済国聖明王始めて金銅の釈迦像いっく一軀を献ず」等云云。善光寺流記に云はく「阿弥陀並びに観音勢せいし至欽明天皇御宇治天下十三年壬申十月十三日辛酉百済国聖明王くだん件くだんの仏菩薩ちようだい頂戴」云云。相違如何。